

## 第7回東京アンデパンダン展 人気投票上位者展

い し い けん あ べ か す た か

## 石井健 阿部起任 二人展

## 「nostalgia」開催

会期 2017年6月27日(火)～7月6日(木)

[http://earth-plus.net/?attachment\\_id=8076](http://earth-plus.net/?attachment_id=8076)

■6月30日(金) 19:00～レセプション&amp;パフォーマンス

株式会社アースプラス（東京都江東区木場／代表取締役：松尾直樹）が運営する、EARTH+GALLERY（アースプラスギャラリー／東京都江東区木場）は、2017年6月27日（火）～7月26日（木）の期間、第7回東京アンデパンダン展（<http://earth-plus.net/?p=7680>）で、人気投票2位を獲得した石井健と、3位を獲得した阿部起任による、二人展「nostalgia」を開催致します。30日(金)のレセプション&パフォーマンスではアーティストが在廊し、作品の説明や制作の秘話などを語ります。



## ■深瀬鋭一郎氏（深瀬記念視覚芸術保存基金代表）による解説

本展のテーマであるノスタルジア（英：nostalgia）またはノスタルジー（仏：nostalgie）とは、一般に、異郷から故郷を懐かしむこと、過ぎ去った時代を懐かしむこと等と定義される。石井の作品には子供の頃に入っていた、おもちゃやアニメ作品、漫画やゲームを懐かしむ気持ちが、阿うした個人的な郷愁や感情の昂ぶりを文学や歌舞音曲の作品へ昇華させた例は、古今東西を問わず多く見られることから、これは現代日本のみならず、世界的な傾向とも考えられるのではないだろうか。

昨今、トランプ大統領のアメリカや、メイ首相のイギリスをはじめ、少なからぬ国・地域で「ポピュリズム的」とも言われる国際協調より自国民の利益を優先する政策が広がりつつある。その背景には、「移民の受け入れや、TPP、欧州連合（EU）等の国際協約や為替操作などによって自らの仕事が奪われている」という各国の中間・貧困層の認識があると指摘されている。つまり、「昔はよかった」と懐かしむ人がそれほど多いということだろう。

芸術作品が、作家の分身として生まれ出る以上、作家の体内ノスタルジアが作品に表れるのは当然であり、それぞれの作品が醸すノスタルジアは、受け手である観客が理解した形で認識されるであろう。それは、それぞれの作品にノスタルジアを感じ取った観客も同様のノスタルジアを感じているという共感の表れかもしれない。

## ■石井健 阿部起任 二人展「nostalgia」概要

名 称 : 第7回 東京アンデパンダン展 人気投票上位者展  
石井健 阿部起任 二人展「nostalgia」  
アーティスト : 石井健 阿部起任  
日 付 : 2017年6月27日(火)～7月6日(木)  
※毎週月曜休廊  
時 間 : 11:00～19:00 (最終日17時まで)  
会 場 : EARTH+GALLERY  
〒135-0042 東京都江東区木場3-18-17 1F  
主 催 : 株式会社アースプラス  
U R L : <http://earth-plus.net/?p=7928>

## ■「石井健」コンセプト・プロフィール

「半径マイナス3センチの世界」

今回の展示コンセプトは「半径マイナス3センチの世界」である。モチーフに選んだものは、幼少期に遊んだおもちゃや、思い入れのある、今でも自分の生活に影響を与えているモノたち。それは、わたしの場合は、海辺や路地裏の絵画的風景ではなく、超合金のロボットやタツノコ作品や漫画やゲームであった。コンセプトとして選んだ理由は、今、人と人がツナガルためのアートや、世界的な問題を問いかけるアートという考え方が多い中、恥ずかしくも極々個人的な理由をモチーフにすることは、そのこと自体が表現となり、コンセプトになると考えたからである。しかしそれらは、濃く強く表現するものではない。そのようなバイタリティや生命力は表現者としての自分の質にはない。それは、霧雨のように降ってくるもので、隠すように、包むように、私の心の半径マイナス3センチくらいのところに置かれているものである。表現方法としては、モチーフやテーマをオイルパステルの霧雨のような線で画面に写し取っているものである。モチーフを霧雨で隠すことで、主張したい気持ちと誤魔化してしまいたい気持ちとをすり合わせ、その状態そのものを表現として画面に刻むことを目指した。今後の課題は、モチーフの広がり、そのモチーフの印象や形状をいかに線と色で解体し再構成していくかである。抽象的になりすぎず、軽さを残しつつ、画面として絵画的に成立させることを目指している。

- 石井健 (Ken Ishii) -

1975年 神奈川県横浜市生まれ  
1999年 日本大学芸術学部美術学科絵画コース卒業  
2001年 グループ展「陽展」(湘南台 はる画廊)  
個展「無碍の人計画」(銀座 小野画廊Ⅱ)  
二人展「勝手にトリエンナーレ」(関内アカデミーギャラリー)  
2002年 グループ展「陽展2」(湘南台 はる画廊)  
二人展「ジャパン徒然」(関内アカデミーギャラリー)  
個展「眼鏡花鳥ズ」(銀座 小野画廊Ⅱ)  
2005年 個展「ジャパン庭園」(銀座 小野画廊Ⅱ)  
造形教室えのぐぼかん、入船北保育園、言問幼稚園 造形講師

ホームページ

こどもと造形もページ「造形ポッケ」<http://zoupoke.petit.cc/>



## ■「阿部起任」コンセプト・プロフィール

「TYO⇔OIT」

私は、大分県大分市で生を受け、育ちました。日本の南西部に位置するこの街は、時代の波に乗り工業都市として発展しました。高度成長期、この都市で育った私達は、未来は必ず幸福なものと教えられ、誰もが未来は現在よりも幸福で明るいものであると信じていました。しかし、1990年代の経済危機で、工場は閉鎖され、人々の多くは街を去って行きました。私もそんななかの一人です。大学進学を機に、「明るかったはずの未来があった」故郷から、「明るい未来があるであろう」東京へと移り住みました。「不景気」と呼ばれる時代の中でも、東京という街は、私の中では光り輝いた都市でした。しかし、その光輝く東京も、私の中では違和感を感じざるを得ない街でした。どこかよそよそしく、ホンモノではない何かを感じずにはいられない街でした。反して、東京で生活をする中では、寂れた故郷にいるときには華やかな東京にあこがれ、虚構の部分を感じずにはいられない東京ではホンモノの故郷を思う。そんなわたしが内包した二律背反を各々の街の現在の姿を描くことにより表現しました。風景の中に描きこまれた蓮の花、キョウチクトウ、人物は、そこで暮らした、もしくは今後暮らすであろう人々の象徴です。

- 阿部起任 -

1973 年 大分県生まれ  
 1998 年 早稲田大学社会学部社会学科卒業  
 卒業後 TV-CM 制作会社にて働く、その後退社

2001 年 セツ・モードセミナー入学  
 2006 年 セツ・モードセミナー修了  
 2002 年 雑誌「イラストレーション」第 125 回チョイス入選  
 グループ展「キリンかるた」参加  
 2004 年 個展「セツ展月光荘賞受賞記念 阿部起任個展」銀座月光荘  
 グループ展「セツ展受賞者 20 人の展覧会」参加  
 2006 年 GEISAI#10 にてスカウト審査「ステディスタディ賞」受賞  
 2007 年 アメリカ合衆国 N.Y. Agora Gallery 主催  
 2007 Chelsea International Fine Art Competotion 入選  
 (審査 / Tina Kukeilski, senior curatorial assistant  
 at the Whitney Museum, New York City)  
 2007 年 「吉祥寺アパートメント」グループ展参加  
 NY Agora Gallery にてグループ展参加  
 amuse art jam 2007 in 京都 グランプリ一次審査通過 京都文化博物館にてグループ展参加  
 2008 年 雑誌「エスクワイア」主催「esquire cafe」参加。青山のカフェにて作品展示  
 シンジュク・アート・インフィニティ入選 新宿丸井工事現場壁面にて作品展示  
 「吉祥寺アパートメント」グループ展参加  
 2009 年 Zuishouji Art Project 参加 個展「阿部起任作品展」開催 (東京/白金 瑞聖寺)  
 2010 年 RUFUS LIN GALLERY にて作品展示 (カナダ/バンクーバー)  
 2011 年 個展 (N-room art apace / 東京)  
 ギリシア アートフェア「ART ATHINA」出品  
 2015 年 「トーキョー・アート・ナビゲーション・コンペティション公式  
 フェイスブック」にて「今週のアーティストピックアップ」として紹介される。  
 大分県大分市の実家に居を移し、大分県大分市から大分県由布市湯布院の飲食店に  
 片道 50 キロかけて通勤しながら、制作活動を行なっている。



## ■EARTH+GALLERY 概要

現代アートを中心に、デザイン、ファッション、カルチャーなど、様々なジャンルの表現をクロスオーバーにご紹介しています。毎月第 3 土曜日には、「ARTY PARTY」と題し、多くの方にアートを身近に感じていただける機会として、展示企画とコラボレーションしたワークショップやトークイベントのほか、ミュージックライブやパフォーマンスライブなど様々なイベントを開催しています。

名 称 : EARTH+GALLERY  
 U R L : <http://earth-plus.net/>  
 所在地 : 〒135-0042 東京都江東区木場 3 丁目 18-17-1F  
 アクセス : 木場駅 3 番出口から徒歩 6 分 /  
 門前仲町駅 1 番出口から徒歩 10 分  
 T E L : 03-5809-9949  
 事業内容 : 美術作品の展示・販売、イベントの企画・運営  
 運営母体 : 株式会社 アースプラス

